はっと抓み唄

一　鍋の真ん中でよく煮つまった
　　汁にゃわしらの心が染みる
　　命の粉を八十八度（たび）
　　練って抓（つま）んで取って投げ
　　頬っぺた落ちる囲炉裏端
　　ひと口亀（かめ）ば千両の味
　　鶴（つる）っとふた口万両の味

二　声を掛けられず涙に暮れた
　　冬の畑の置き去りかぼちゃ
　　わしらに拾われ湯気立つ汁に
　　入ってはっとの妻となりゃ
　　きのこも葱も踊りだす
　　ひと口亀（かめ）ば千両の味
　　鶴（つる）っとふた口万両の味

三　登米の名物我らがはっと
　　昔馴染みの煮込んだ味は
　　いつの時代も変わらぬままに
　　皆（みな）に食べられ晴れ晴れと
　　ふるさと映す粋な味
　　ひと口亀（かめ）ば千両の味
　　鶴（つる）っとふた口万両の味

作詞/山田悦且　作曲/佐藤寛一　編曲/大森一夫　唄/佐藤寛一　伴奏/寛謡会